

北海道医歌人会詠草



時局

釧路 兎玉 昌彦

齡重ね世の中見えて来た筈が不条理続く日本の政治
敗戦の総括なきまま七十年、今また向かういつか来た道
歴史とはくり返すもの作ってはまた壊すべき宇宙の運命
風の夜に裸となりし灌木は病葉一つ抱え震えて
窓ガラスにこびりつきたる鳥の羽毛、激突死の跡、小さき墓標

東京の夜

旭川 稲積 文子

ドライアイ人ごとならず吾が眼にも文字を追いつつそのつらさ知る
東京で浮世離れとはこのことか三味の音華やぐ夜の屋形船
ゆるやかに時が流れる歌舞伎座に異質と思ふ観客われは
躍動する画面に心動かされ油絵を習いし若き日のあり
あこがれの木田金次郎美術館岩内の人々も皆親切なりき

雪

江別 三宅 浩次

目覚めれば今冬初の雪世界純白なるを良しとしよう
純白は良しといえど迫り来る冬に向かひてためらひもあり
降り積もる雪の寒さも物とせず子らのはしゃぐに微笑み返す
石狩の海に湧き立つ積乱雲わが地に雪を置き去りて行く
あるときは雲の姿であるときは雪の姿と様変わる水の不思議よ

N夫人を悼む

札幌 古屋 統

歌を詠む亭主閑白のポリスあり突如糟糠の妻を喪う
押掛けて議論吹っ掛け客泊る笑顔で夕餉譚え給う
バスジャック銃口前に身を挺し説諭盡くせる警視正ありき
殺られると覚悟した事二度ありと君生き残り妻を喪う
糖尿を病むこと久し妻逝きて苦渋の断は施設に移る

米寿

美唄 吉村 誠治

「お父さん米寿のコンペしませうね」思はず摩る水溜まる膝
左膝の抜きたる水は七cc我に示して医師は微笑む
喜寿祝ふゴルフコンペに集ひくれし友幾人も名簿より消ゆ
纏めたる「我がゴルフ人生」又聞き米寿の健康感謝深まる
生甲斐はゴルフライフと答え来し人生は今満ちたりてゐる

アヲチドリ

札幌 浜島 泉

蘭が好きとりわけ野草アヲチドリ行きて再び見まくあらまし
歩きては心もとなし運転は劣らずと言ひ乗せ賜ひけり
朝の山初冠雪に思ひ解く昨日雪虫飛びて夕冷え
兎の丈の程にもなりし里芋の露帯びて我触れ散りけらむ
一株のエゾトリカブト悄然と萎え行く前の色を誇りつ